

自然の偉大さを体で感じて、生きる自信につなげる――

日本と同じ島国、ニュージーランド出身のグレアム・セイヤさんは、自然の美しさと地域住民の人柄に惹かれ、川根町家山に移り住んできました。彼は、母国で慣れ親しんだカヤックの体験教室を地元で開催し、子どもたちが家族と一緒に自然と触れ合う機会を創出しています。

【母国を離れ義母の近くで】
セイヤさんが、子どもの高校卒業を機に母国ニュージーランドを離れ、奥さんの実家のある焼津市へ移り住んできたのは5年前。

「国際結婚の多いニュージーランドでは、親の介護を理由に帰国する人がたくさんいます。でも妻と私は、お義母さんが元気なうちから一緒に楽しく過ごしたいと思います、日本を暮らすことを決



めたんです」

来日したセイヤさん夫妻は、スポーツとして母国で親しまれているカヤックの製造・販売を決断。やがて川根路や駿河湾で体験ツアーを企画するようになりました。



野守の池(家山)でカヤックを指導 グレアム セイヤさん

り暮らしたいと思っていました。仕事で海と山を行き来している頃、知人から家山を紹介されたんです。見学に訪れたとき、一目見て引越を決めましたよ。それは、水辺に浮かぶカヤックに乗って

【野守の池に魅せられて】
日本に来て2年が過ぎたころ、生活の拠点を実家のある街中から自然豊かな野守の池の畔に移しました。
「自分たちの時間は、自然と触れ合いながら、のんび

る自分や体験者の皆さんを想像できたからです」と当時の感動を振り返ります。
週の半分は家山で生活するといふセイヤさん。日課は朝の散歩で、池を眺めながら新鮮な空気を胸一杯に吸い込む

そうです。「心を癒してくれ自然が大好き。そして、外人の私に気軽に声を掛けてくれる家山の皆さんも大好きです」と地元について話すと、笑顔が絶えません。

【子どもたちに伝えたい】

一方、日本でのウォータースポーツには制約が多く、カヌーやカヤックに乗ることができない場所が限られているため、切なく感じるそうです。

「子どものうちから自然と触れ合うことが大切。実際に体験してみないと、なぜ危険なのかを理解し、その上で自然を楽しむことができませんからね。こうした経験が本人の自信につながり、人生の中で大きな決断をする際に役立つはずですよ」と、かつて母国の大自然から学んだセイヤさんは力強く語ります。

カヤックを通じて、打ち寄せる波を越えるように、人生の困難に立ち向かう精神を、自ら楽しみながら伝えていくセイヤさん。その姿と笑顔に、多くの人が惹かれ、新たなにぎわいが川根地区で広がりはじめています。



参加者には、乗船前に注意事項を説明・指導

Shimadajin File #57

しまだじん